

ほとんどの人は、小さめの靴を履いている事実 きちんと自分の足のサイズを知ることが大切です-その1

みらいクリニック 院長 今井一彰

靴下外来には、いつも様々な靴が持ち込まれます。しかし、そのほとんどがサイズ違いを履いています。靴の専門店で購入してもらった、病院で作ってもらったという靴でさえもそうなのですから、一般の方が一人で靴屋さんに行って、自分にぴったりあった靴を選ぶというのは至難の業です。実際に靴下外来で提供している靴を履いてもらうと、ほとんどの方が、こちらの方が履きやすい、歩きやすいと回答します。そのサイズは、自分が思っているサイズよりもずいぶん大きいのです。中には1.5cmも大きいときがあります。では、なぜこういう間違いを犯してしまうのでしょうか。きちんと足指をのばしていないから、その一言に尽きます。さまざまに間違った靴下により、足指は常に曲げられているのです。購入の際に、裸足ではなく、靴下やストッキングのまま足長を測定すると、実際の長さよりも0.5cmは短くなってしまいます。また座った状態ですとさらに短くなります。座った状態で足長を測り、それに靴を合わせるといのは一番してはいけないことです。でも、お客様を立たせるのは気が引ける、とその重要な測定を省いてしまうことがあるのです。(次回に続きます)

足指や足爪の異常の悩みは特に女性に多く、普段の靴・パンプスや筋力の問題とされています。これらを改善するには、従来より靴外来・フットケア外来がありました。が、かける費用の割には満足な結果を得られることが少ないのが現状でした。当院では、専用の靴下(CS ソックス)を用いて着用するだけで、様々な身体の不調を改善する日本で唯一(当院調べ)の靴下外来を平成 19 年より開設しております。靴下外来に関する取材もお時間の許す限り、対応しております。

この件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

みらいクリニック附属リウマチ&フットケアセンター 担当 湯浅

TEL 092-415-2153 FAX 092-415-2154

Eメール secretary@mirai-iryoku.com